

○本技術の内容

作業員の居場所を検知するRFIDシステムで、作業有無の精度を高める技術

○困りごと

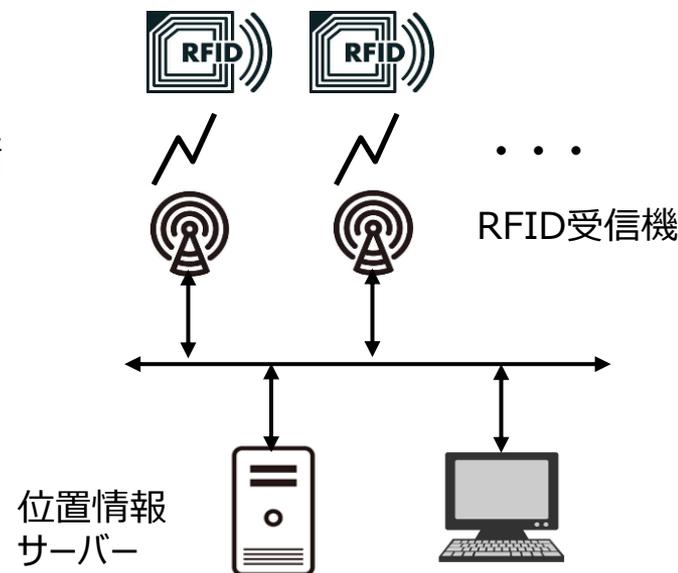
- ・作業開始時と終了時に作業指示書に手書きで記入
- ・現場からあがってくる集計データの登録が手間
⇒作業を効率化したい

○従来のもの

作業員が移動する際に通っただけでその位置で、作業していたと検知されてしまう
・・・作業員のRFIDの受信だけで、作業員の位置だけで作業をしていたと判断

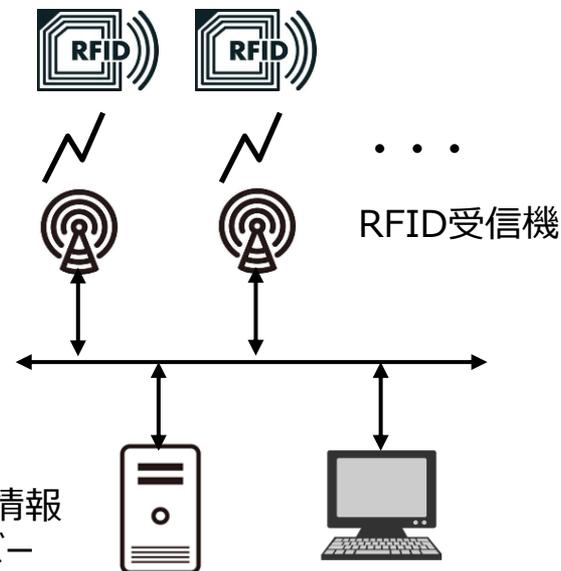
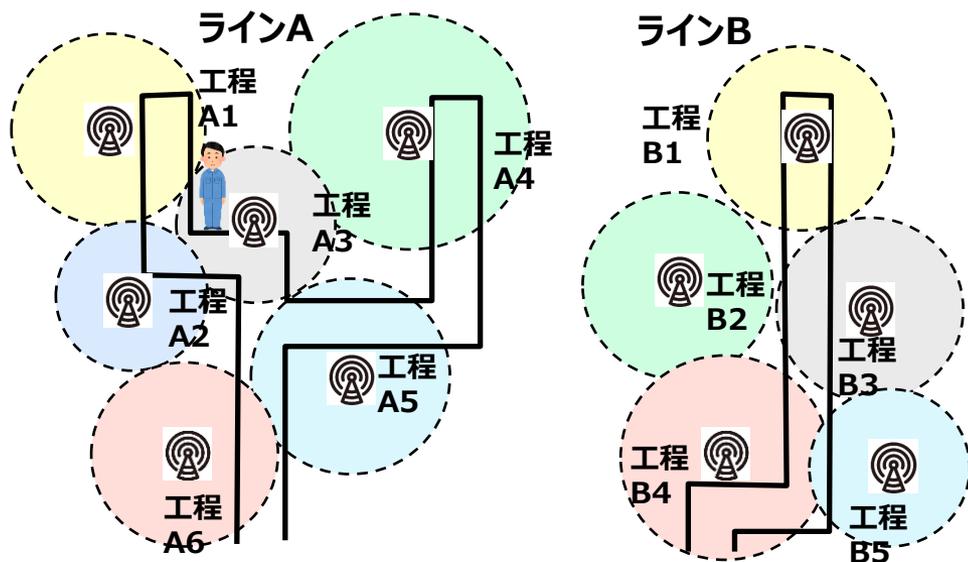
○この技術のメリット

測位データに、工程、ライン、滞在時間の情報を付加することで、作業有無の検知を向上させ、適切な工程が維持できる



人の動きを精度良く検知して、工程管理できます！

作業員が携帯するRFIDタグとの通信で、工程、ライン、滞在時間を識別して、作業員の実績を管理



滞在期間の長さが所定のしきい値以下（例えば数分）の作業の場合はノイズとして、前後の作業を統合

○応用場面

- ✓ 屋内の特定エリア内、またはそのエリアを出入りする人動きを精度良く管理
 - ・作業員の動線（経路、作業時間）を可視化
 - ・運搬作業員の人員適正配置

○展開先候補

- ✓ 製造業……蓄積された所在データで業務改善
- ✓ 配送センター……運搬作業員の工程管理